

# ウエルス「上期4倍高」の背景

## 東証1部指定も視野に

### キーストーン・パートナーズ

### 堤智章 代表取締役 聞く

今年上半期（1～6月）の上昇率上位銘柄に、4・3倍高となったウエルス・マネジメント（3772・2部）が挙げられる。発端となったのは昨年6月。企業再生・成長支援ファンドの管理・運用会社、キーストーン・パートナーズ（KSP）との資本・業務提携だ。KSPの堤智章代表取締役（写真）は昨年7月26日付本紙で、「同日終値1657円に対し」「5000～6000円あったのも不思議はない」と語っていた。今年6月高値が2724円（権利落ち換算で5448円）だから、見事の中の格好となった。約1年を経て、その辺の背景や現状などについて、堤氏に話を聞いた。



「予言」通りだ。

要因によるものと、『永

一株価低迷企業には、

「経営不振のホテルを

単に1部に上がるのでは

やシナジーも期待できそ

ない。株価は2つの側面

から形成される。短期的

不祥事など『してはいけ

世界的大手ホテルチェー

「2021年3月期ま

再生にはアイディアと

な需給関係やテクニカル

計量的判断だ。健全な市

一方で、『必要なことを

金調達面を主体に事業計

「中期計画上の今3月

もに資金が必要。そこに

を重視する流れが強まる  
ことを期待したい。当時  
のウエルス株は、M&A  
（企業合併・買収）など  
で用いられる指標、EV  
/EBITDAで5～7  
倍と極端な割安水準にあ  
った。今は10倍近い水準  
となり、今後の株価は將  
来の成長性をどう読むか  
で決まってくるだろう」

ある。ウエルスは後者に  
近い。IR（投資家向け  
広報）など普通の対応を  
取るだけでも割安評価の  
返上につながる」

「事業承継における再  
生・成長支援だ。潜在的  
ニーズは250万社とも  
言われる。後継者が深  
刻化しているが、再編を  
伴うことで、シェア拡大

主戦場とする京都  
では、ホテルが供給過剰  
状態との声もあるが。

期経常利益30億円、来期  
35億円、再来期40億円に  
向けて順調だ」

「低価格型ホテルでは  
その通りだが、欧米訪日  
客などのニーズが強い高  
価格のプティック型ライ  
フスタイルホテルはまだ  
まだ不足している。先行  
き東京圏開拓も課題だ」

「KSPとしては、  
1号ファンドで学校やお  
寺、2号ファンドでイン  
バウンド（訪日外国人）  
関連、3号ファンドでホ  
テル関連など、その時々  
の時流に即したテーマで  
投資を進めてきたとか。

「2021年3月期ま  
でに立ち上げる予定で順  
調に準備が進んでいる」

「3号ファンドの償還  
は21年だが、ウエルス株  
の貢献などもあって、現  
状では最高のパフォーマンス  
となった」

「会社側の努力によっ  
ては基準も満たした。  
3月末時点で株主数が不  
足しているが、増加策の  
一環として株式分割も実  
施した。一方、東証市場  
再編後の新基準とも噂さ  
れる時価総額250億円  
も射程に入った。東証1  
部となれば機関投資家も  
買いやすくなる。ただし、

「そろそろ4号も。  
」5月7日に約110  
億円でスタートした。1  
年間募集が続くが、毎月  
順調に増えている。許認  
可取得を経て8月上旬か  
ら投資を始める予定だ」

「1部指定」については、

「今度のテーマは、

「利益計画は、

われわれの出番がある」